平成 22 年度　事務事業事後評価調書（平成　21　年度事業）

整理番号	10	―	34

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	家庭教育推進事業					
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		生涯教育係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	高橋健仁		氏名	大和良成
事業の概要	休日拡大の伴い，地域や家庭における役割も増大しており，教育力の低下も叫ばれている中，子育てをする上でもっとも大切な場である家庭での教育のあり方等，学習機会の支援を行っている。					

全体計画（平成 20 年度～ 24 年度） 事業費	
国・道支出	千円
地方債	千円
その他	千円
一般財源	2,000 千円
事業費計	2,000 千円

実施方法	■ 直営	民間委託	その他（　　）
第 5 期総合計画（前期）	■ 登載事業	非登載事業	優先度 B

事業の位置付け			
政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	
基本施策	#	生涯学習・生涯スポーツの推進	
単位施策	3	青少年教育の推進	
事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務	
その他計画・根拠等			

事業費 実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)
国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
地方債	千円	千円	千円	千円	千円
その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
雄武町負担額（一般財源）	291 千円	294 千円	400 千円	400 千円	400 千円
合計	291 千円	294 千円	400 千円	400 千円	400 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	町民
【抱える課題やニーズは】	多くの学習機会の支援と情報の共有
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	家庭教育の充実に向けた，学習支援と家庭教育を支援する地域づくり
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	家庭・学校・地域・関係機関とのネットワークの整備

望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）

学級数と参加者

指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
① 開設学級	目標年度	平成21年度
	目標値	13 学級
	実績値	6 学級
	達成度	46.2 %
② 学級及び講演会参加者	目標年度	平成21年度
	目標値	300 人
	実績値	382 人
	達成度	127.3333 %

内容（どのような手段で何を行ったか）	
①家庭教育学級の促進	雄武小学校6学級開設し，親子でレクリエーションや調理実習を行った。（各PTAの創意、工夫で実施している）
②家庭教育講演会の実施	講演会（講師：NPO青少年メディア研究協会　下田　真理子　氏）（雄武町PTA連合会との協力のもと実施している）

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	家庭教育は，乳幼児期などの親子のふれあいによる絆の確立，基本的な生活習慣，善悪の判断など全ての教育の原点となるものです。昨今，家庭の教育力の低下が指摘されており当該事業を実施しない場合，子ども達の成長に影響を及ぼす。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 □達成 ■ほぼ達成 □下回る	家庭教育学級を開設したことにより，親子のふれあう楽しさが今一度再確認できた。家庭教育講演会では，生きる者という原点に立ち返り，子どもは一人では生きられないということを学び，親子のあり方を考える講演であり，対象年齢層以外の町民参加もあり，地域ぐるみで家庭教育を考えることができた。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 ■その他	家庭教育学級では，経費の一部を補助しているが，実施にあたっての必要最小限の経費補助であり，削減につながれば事業の停滞につながる。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	家庭教育学級については，開設学級の自主企画・自主運営としている。また，家庭教育講演会では，町民誰もが参加できるよう広く情報周知をしている。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
生涯学習を推進する上で，学校教育・社会教育・家庭教育の連携は重要であることから，計画どおり事業を進めることが適当と判断する。	同左	

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持	**継続／現状維持**	
社会教育の重要な施策のひとつであり，あらゆる関係機関と情報を共有し，今後は地域ネットの整備を図り，継続した事業展開を図る。	同左	

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）